

促成イチゴ定植始まる

J A阿蘇イチゴ部会は、中部、南部合わせて部会員56名、作付面積12.4haに今年も促成イチゴの定植が始まりました。育苗期間中は曇天による生育への影響が懸念されましたが、病虫害の発生も少なく順調に生育し、平年通り花芽分化が確認されています。

管内では準高冷地の気象条件を活かし例年8月下旬から9月中旬に定植されます。このことにより他産地よりも早い時期に出荷することが可能となり、年内収量の向上を目指しています。品種は「さがほのか」「紅ほっぺ」を中心に栽培されており、今後、生育が順調に進めば県内では一番早く10月下旬頃に出荷される見込みです。管内では栽培面積は微減する一方で、施設の導入に意欲的な生産者も居り、補助事業等を活用して面積拡大を行っています。

今年度、阿蘇支部では病虫害に侵されていない健苗育成をイチゴ生産の重点課題として取組み、収量・品質・所得向上を図っています。



定植後の様子